



研修のパンフレットを手にする
熊本大のデブコタ・ハリ特任助教＝熊本市中央区

熊大院生 ネパール大地震の復興学ぶ 9月に首都カトマンズで

熊本大で医学や薬学を専攻する大学院生を対象に、国際的に活躍できる人材を育成する「HIGOプログラム」のデブコタ・ハリ特任助教(35)＝薬用植物学＝が9月、母国ネパールに大学院生約10人を連れ、ネパール大地震の復興について学ぶ研修を実施する。

ネパール大地震は昨年4月に発生し、約9千人が死亡した。ネパールでは都市部と農村で復興の進むスピードに差が出るなど、発展途上国特有の問題が生じているという。

研修は8日間の予定。大学院生たちは、首都カトマンズで復興を

担う国の機関や国際NGOなどを訪問し、現地の学生と意見交換する。

「復興について考える過程で、ネパール文化への理解を深めてほしい。さまざまな国を知ることは、学生たちの国際舞台での活躍につながる」とハリ特任助教。

熊本地震で大江キャンパス(熊本市中央区)の避難所運営に携わった修士2年の嘉村美里さん(23)は「ネパールに足を運ぶことで気が付く問題があるはず。自分の体験もネパールの人たちに話したい」と意気込んでいた。

(園田琢磨)